

HOPES ホープス セカンド 2nd

7年前の原発事故後、被災地の状況を案じた田中さんは自ら長泥地区に入りました。「鳴原区長とは同志というか友達というか、それからずっと付き合いが続いています」。

放射線の医学等の利用の研究に携わってきた田中さん。旧日本原子力研究所の副理事長や、日本原子力学会の会長も務めました。リタイアして1年3か月後の大震災では、住まいのある茨城県ひたちなか

移り住んだこの村を拠点に

田中 俊一さん（上飯樋）



原子力規制委員会の前委員長である田中さん（左から2人目）。交代に伴う更田豊志委員長（同3人目）の関係自治体への訪問に同行しました。初日、12月14日には村を訪れ、菅野村長らと会談しました。



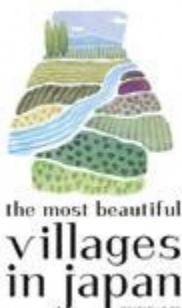
福島市出身の工学博士。平成24年9月から29年9月まで原子力規制委員会の初代委員長を務め、退任後、村に住所を移しました。2月1日付で、飯館村復興アドバイザーの委嘱を受けていただきました。

市で被災。その中の原発事故でした。3月末には、専門家16人の連名で「福島原発事故についての緊急提言」を発表。田中さんは、当初から、県や各市町村への協力を惜しみませんでした。

それから7年。移住後も早速、講演や助言の依頼が後を絶ちませんが、「個人の相談にも応えていきたいと考えています」「それがやりたくて、福島に戻つて来ただのです。村を拠点に出掛けて行きます」。

田中さんは「村の教育にも協力したい」と言います。「子ども達には、生きる力を教えたいたい。知識じゃなくて、知恵をね。新しい村づくりに、自身の知見とネットワークを生かしたいと考えてみるのです。いつも協力すると、面白い友人・知人がいます。歴史や農学、学者の話をきいて面白いですよ。であれば子ども達と一緒に習などもしてみたいですね。私なりにいって夢を実現したい。あわてず、じっくりとね」。

△編集後記



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

私は特別な遊び道具だったなあ。空想をふくらませて、宝物のようにも扱いました。このへん、あの頃の私が見たら、目を輝かせて「取つてもいいですか?」って行つたんだろくなあ。雪の中に入るのは好きで、綿雪、粉雪、牡丹雪…飽きずに眺めたものでした。氷も雪も友達だったのに。朝カーテンを開けた途端に青やめる大人になつてしましました。(星)

今年のお正月、イイタネちゃん宛にかわいいイラストや温かなメッセージ付のたくさんの年賀状が届きました。送り主には、北海道、東京、熊本などにお住まいの方も。遠い町から応援する声が届くことは、本当にうれしいことです。今年も道の駅や村イベントにたくさん登場してくれる(はず)。イイタネちゃんを一緒に育てるよ。飯館村、イイタネちゃんを通して、今年もたかさんの笑顔が生まれてくれる」とを願つておるタネ!(木幡)